

埋文

とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2020.3.31

VOL

150



小竹貝塚出土品（富山市呉羽）
《刺突具》

小竹貝塚からは、動物の骨角を素材とした様々な骨角器が1,683点も出土していますが、その中でも刺突具が最も多く、907点も出土しています。

両端を尖らせたヤス状のものは漁撈用として、一方のみを尖らせたものは大型魚の刺突漁だけでなく、狩猟や動物の解体にも使われていた可能性があるといわれています。

とっておき埋文講座●埋文とやま150号特集「『埋文とやま』主要記事総覧」

埋文あらかると●富山市水橋地区の試掘調査

Center Flash●催しガイド2020

古写真発掘！●じょうべのま遺跡（国指定史跡） 入善町田中

富山県埋蔵文化財センター

『埋文とやま』 主要記事総覧

埋文とやま150号記念特集

昭和52年4月に当センターが開所してから5年半が経った昭和58年1月、所報「埋文とやま」は創刊されました。開所当初から所報を望む声がありましたが、当時は緊急の発掘に追われ、実現までに時間がかかりました。印刷にかかる予算もなく、当時の所長(古岡英明氏)が和文タイプで作成した正に手作りの所報でした。(詳細は、第99号に掲載)

創刊に込めた思いは、県民の皆様にご当センターの活動や埋蔵文化財の保護・調査・研究に必要な情報を提供できる場となることでした。その後、元号が昭和から平成、そして令和と変わる歳月の流れとともに、今号で「埋文とやま」も節目となる150号を迎えました。

これを記念して、これまでの主な記事を通して「埋文とやま」の歩みを振り返ります。

※紙面の都合上、主要記事のみ掲載します。ゴシック体は講演記録です。



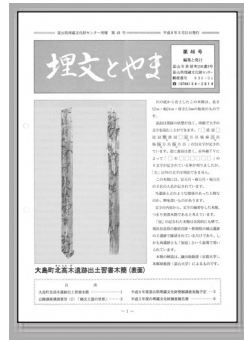
創刊号

No.	タイトル	執筆・発表者
S57	1 遺跡の調査と破壊	古岡 英明
	SS8.1 小杉流通業務団地内No.21遺跡の調査	上野 章
SS8.3	2 埋蔵文化財保護行政の課題と悩み	野田 哲英
	古代の塩づくり 遺跡の保存と活用(第1回)	岸本 雅敏 松島 吉信
S58	3 人間の英知と遺跡	古岡 英明
	SS8.6 古代の鉄づくり	関 清
SS8.8	4 地域開発事業と埋蔵文化財の保護について	成瀬 弘生
	古代の墨書土器 調査の速報 弓庄城跡、南太閤山I遺跡 遺跡の保存と活用(第2回)不動堂遺跡	宮田 進一 酒井 重洋・久々 忠義 松島 吉信
SS8.12	5 遺跡出土の遺物は何を語ってくれるか	古岡 英明
	高岡市頭川城ヶ平横穴墓群の調査 水鳥を形どった須恵器	酒井 重洋・逸見 護 大野 文郷 久々 忠義
SS9.3	6 学生時代	湊 晨
	遺跡の保存と活用(第3回)串田新遺跡	松島 吉信
S59	7 遺跡の紹介と環境整備について	前田 英雄
	SS9.6.20 じょうべのま遺跡の古代景観 門外漢所感	岸本 雅敏 笈田 悦造
SS9.9.30	8 古代の川跡と祭祀遺物	関 清
	立山町野沢狐幅遺跡の発掘調査 射水南部丘陵における先土器時代の遺跡 遺跡の保存と活用(第4回)高瀬遺跡	森 秀典 山本 正敏 松島 吉信
S80.1.31	9 藪田薬師中世墓の発掘調査	岡本 恭一
	弓庄城第5次発掘調査から 富山県下遺跡出土の黒曜石遺物の原産地分析	高慶 孝 薬科哲男・東村武信
S60.3.30	10 遺跡の保存と活用(第5回) 「氷見海岸付近の史跡」	松島 吉信
S60	11 埋蔵文化財の理解と愛護	前田 英雄
	S60.6.29 小杉丸山遺跡の調査	上野 章
S60.10.1	12 魚津市本江B遺跡の発掘調査	麻柄 一志
	小杉丸山遺跡の採土穴 遺跡の保存と活用(第6回)相倉・菅沼集落	斎藤 隆 松島 吉信
S61.1.20	13 八尾町長山遺跡出土の土偶について	神保 孝造
	小杉町南太閤山I遺跡(A地区)の調査 小杉流通業務団地No.19遺跡の調査から	山本 正敏 上野 章
S61.3.31	14 室住池窠跡群採取遺物の紹介 遺跡の保存と活用(第7回)じょうべのま遺跡、安田城跡	池野 正男 松島 吉信

No.	タイトル	執筆・発表者
S60	15 縄文時代にウマはいたんですか	千秋 謙治
	S61.7.31 弥生時代の富山平野 米づくりの村と水田	久々 忠義
S61.11.1	16 昭和61年度の朝日町馬場山D・G遺跡の調査から	橋本 正春
	昭和59・60年度の朝日町境A遺跡の調査から	橋本 正春
S62.2.28	17 越中富山の古代製鉄-金属学的見 地からのアプローチ-	大澤 正己
	S62.3.31 富山の塚三題 経塚・十三塚・入定塚 ウサギのはなし	千秋 謙治 斎藤 隆
S62	19 小杉町北野遺跡・椎土遺跡、富山市長 岡杉林遺跡、八尾町長山遺跡、立山町 辻遺跡・浦田遺跡、小杉町黒河尺目遺 跡、朝日町東草野I遺跡 ※以上の遺跡の調査概要報告	島田 修一、 久々 忠義、岸 本 雅敏、北川 美佐子、関 清、 久々 忠義
	20 10周年を迎えた埋蔵文化財センター S62.10.23 大山町花切遺跡の調査 小杉町椎土遺跡(A地区)の調査	千秋 謙治 島田 修一 宮田 進一
S63.2.20	21 富山県埋蔵文化財センター設立 10周年及び本館棟竣工記念式典 「北陸の縄文文化」	所 員
S63.3.31	22 縄文人の思考 境A遺跡出土石器の整理	小島 俊彰 小林 達雄 山本 正敏
S63	23 富山県内の発掘調査から(1)(高岡市 越中国府関連遺跡、小杉町黒河尺目遺 跡、福野町寺家新屋敷遺跡、八尾町長 山遺跡、黒部市阿古屋野古墳)	山口 辰一、 関 清、林 浩明、 古川 知明、島田 修一、桜井 隆夫
	24 富山県内の発掘調査から(2)(高岡市 石塚遺跡、平村下梨花房遺跡、大門町 縄田遺跡、立山町浦田遺跡)	山口 辰一、安念 幹倫、久々 忠義、 森 秀典・北川 美 佐子
H1	25 縄文人の心とまつり 越中瀬戸の流通-新潟県の一例-	水野 正好 宮田 進一
	26 化粧の象徴-いれずみ・赤・祭礼-	上井 輝代
H1	27 富山県内の発掘調査から(1)(富山市 呉羽小竹堤遺跡・岩瀬天神遺跡、立山 町吉峰遺跡、高岡市瑞龍寺遺跡、福野 町五百歩遺跡・寺家新屋敷跡)	古川 知明 森 秀典 山口 辰一 林 浩明

No.	タイトル	執筆・発表者
28 H1. 10. 1	富山県内で焼かれた中世陶器 小矢部市 桜町遺跡、北反畝遺跡	酒井 重洋 山森 伸正、伊藤 隆三
29 H2. 1. 10	遙かなる鉄のルーツ 小杉丸山遺跡が国指定史跡に	窪田 蔵郎 所 員
30 H2. 3. 26	鉄の考古学	潮見 浩
H2 31 H2. 6. 30	富山県内の発掘調査から(1) (井口村井口城跡、総合運動公園内遺跡群、小杉町上野遺跡群、高岡市越中国府関連遺跡、立山町辻遺跡)	押川 恵子、関 清 酒井 重洋、山口 辰一、山崎 典子
32 H2. 11. 5	縄文時代の石斧と玉つくりの村-朝日町境A遺跡- 富山県内の発掘調査から(2) (福光町梅原胡摩堂遺跡、小矢部市道林寺遺跡、婦中町富崎四隅突出墳丘墓、大山町東黒牧上野遺跡A地区)	山本 正敏 高梨 清志 伊藤 隆三 久々 忠義 斎藤 隆
33 H3. 2. 25	古墳のまつり-前方後円墳祭式の成立と変質- 二上山丘陵の旧石器時代 発掘調査速報(南中田D、布目沢、梅原安丸Ⅲ遺跡)	都出 比呂志 邑本 順亮 所 員
34 H3. 3. 30	縄文のまつり-遺構・遺物からみた儀礼的世界-	大塚 和義
H3 35 H3. 7. 31	富山県内の発掘調査から(1) (富山市三熊内山窯跡・明神遺跡Ⅲ地区、福光町梅原加賀坊遺跡、高岡市越中国府関連遺跡、小矢部市石名田遺跡・白谷岡ノ城北遺跡)	古川 知明、小林 高範、伊佐 智法、山口 辰一、伊藤 隆三、島田 修一
36 H3. 10. 25	境A遺跡出土の土器から 富山県内の発掘調査から(2) (大門町布目沢北遺跡、小杉町石太郎G遺跡・赤坂C遺跡・白石遺跡、立山町辻遺跡、氷見市阿尾島尾A遺跡)	酒井 重洋 山本 正敏、関 清、上野 章、原田 義範、森 秀典、大野 究
37 H4. 2. 29	日本の貝塚からみる北陸地方の貝塚 縄文海進の証拠を求めて 発掘調査速報(石太郎Ⅰ、中老田C、布目沢北遺跡) 富山県の貝塚	金子 浩昌 邑本 順亮 所 員 山本 正敏
38 H4. 3. 31	貝塚からわかる縄文人の生活 五輪塔に立山火山の石	後藤 和民 邑本 順亮
H4 39 H4. 8. 1	富山県内の発掘調査から(1) (高岡市石塚遺跡、上市町湯神子A遺跡、立山町二ツ塚遺跡、福光町梅原胡摩堂遺跡)	山口 辰一 高慶 孝 瀬戸 智子 河西 健二
40 H4. 11. 30	富山県内の発掘調査から(2) (小矢部市白谷岡ノ城北遺跡、谷内21号墳、富山市水橋荒町遺跡、小杉町小杉流通業務団地内No.15B・18A遺跡、伊勢領遺跡) 小矢部市日の宮遺跡A地区出土舟形細石核	西井 龍儀、伊藤 隆三、藤田 富士夫、高畑 寿恵、原田 義範 山本 正敏
41 H5. 2. 26	北部九州における鉄器の出現と普及 旧石器時代の石斧について 発掘調査速報 (大島町北高木遺跡、婦中町小倉中稲遺跡、友坂遺跡)	橋口 達也 松島 吉信 安念 幹倫 高梨 清志 岡本 淳一郎
42 H5. 3. 31	大昔と現代をむすぶ-縄紋人・弥生人と私たち-	佐原 真
H5 43 H5. 8. 1	富山県内の発掘調査から(1)(高岡市山園町遺跡、小矢部市五社遺跡)	山口 辰一 池野 正男
44 H5. 11. 30	富山県内の発掘調査から(2) (富山市吉倉B遺跡、水橋荒町遺跡、小杉町天池C遺跡、小矢部市埜生南遺跡 報告書からみる発掘調査のあゆみ(戦後編)1)	境 洋子、小林 高範、原田 義範、伊藤 隆三 安念 幹倫

No.	タイトル	執筆・発表者
45 H5. 2. 28	豊かな自然とのつきあい-縄文文化- 北陸の東西-境A遺跡の土器から- 報告書からみる発掘調査のあゆみ(戦後編)2)	泉 拓良 酒井 重洋 安念 幹倫



行政文書がB5判からA4判に変わり、「埋文とやま」も平成5年度最終号(第46号)からA4判に。

第46号
表紙は北高木遺跡出土の木簡

No.	タイトル	執筆・発表者
46 H5. 3. 31	縄文土器の世界-縄文造形と弥生造形-	小林 達雄
H5 47 H5. 8. 1	富山県内の発掘調査から(1) 西砺波郡福岡町開静大滝遺跡 他	河西 健二
48 H5. 11. 30	富山県内の発掘調査から(2) (上市町丸山B遺跡・眼目新丸山遺跡、立山町稚児塚古墳、氷見市イヨダノヤマ3号墳) 山に魅せられて-医王山の調査から-	高慶 孝 柴垣 智子 大野 究 西井 龍儀
49 H7. 2. 27	都城の須恵器 大境洞窟発掘調査の周辺 須恵器のはじまり	巽 淳一郎 大野 究
50 H7. 3. 31	発掘調査速報 (福光町梅原落戸遺跡、大島町北高木遺跡、大山町東黒牧上野遺跡A地区、大門町布目沢北遺跡)	岡戸 哲紀 境 洋子 安念 幹倫 神保 孝造 高橋 真実
H7 51 H7. 8. 1	富山県内の発掘調査から(1) 富山市小西遺跡	古川 知明
52 H7. 12. 1	富山県内の発掘調査から(2) (小矢部市白谷岡村遺跡、上市町黒川上山古墳群、婦中町千坊山遺跡) 地中からのメッセージ・掘り出された漆文化	伊藤 隆三・塚田 一成、高慶 孝、片岡 英子 四柳 嘉章
53 H8. 2. 29	弥生社会をどのように復元するか 北陸の古墳	酒井 龍一 三鍋 秀典
54 H8. 3. 29	すき・くわ・かま-日本の農具のルーツを探る- 発掘調査速報(富山市任海宮田遺跡、小杉町小杉流通団地内No.15A遺跡、福岡町木船北遺跡)	黒崎 直 高橋 真実 橋本 正春 神保 孝造
H8 55 H8. 8. 1	国指定史跡小杉丸山遺跡 大門町・小杉町小杉丸山遺跡	所 員
56 H8. 12. 2	富山県内の発掘調査から(1) (福岡町江尻遺跡、富山市豊田大塚遺跡、高岡市院内東横穴墓、婦中町堀Ⅰ遺跡) 縄文土器に表れた動物たち	三島 道子 堀沢 祐一 山口 辰一 片岡 英子 小島 俊彰
57 H8. 2. 28	富山県内の発掘調査から(2) 清水島Ⅱ遺跡 漢字文化の受容-稲荷山古墳鉄剣銘に見る- 砺波平野の古代史 木簡が語る古代の社会	酒井 重洋 狩野 久 山森 伸正 館野 和己
58 H8. 3. 31	発掘調査速報(福岡町石名田木舟遺跡、城端町善徳寺前遺跡、富山市任海宮田遺跡(I地区))	栗山 雅夫 大平 奈央子 島田 修一
H8 59 H8. 8. 1	創立20周年を迎えて 振り返れば20年 富山県内の発掘調査から(1)(下老子笹川遺跡)	岸本 雅敏 宮田 進一 上田 尚美

No.	タイトル	執筆・発表者
60 H10.12.4	富山県内の発掘調査から(2) (大門町二口油免遺跡、高岡市江道横穴墓群、米田大覚遺跡) 石の文化財	尾野寺 克実 山口 辰一 小林 高範 京田 良志
61 H10.2.2	中世の墓-黒川上山古墓群の調査から- 共に生きた縄文人たち	高慶 孝 平口 哲夫
62 H10.3.31	発掘調査速報 (井口村蛇喰A遺跡、下村下村加茂遺跡、富山市任海宮田遺跡、舟橋村浦田遺跡) 縄文の絵の世界	神保 孝造、久々忠義、境 洋子、橋本 正春 春成 秀爾
H10 63 H10.7.15	富山県内の発掘調査から(1) 婦中町中名I・V遺跡	青山 晃 野口 雅美
64 H10.11.15	発見速報 氷見市柳田布尾山古墳 お金のはじまり-和同開珎を語る- 高岡市中保B遺跡、魚津市佐伯遺跡	所 員 藤井 一二 根津 明義、塩田 明弘
65 H11.2.1	発掘調査速報 (舟橋村浦田遺跡、 栃谷南遺跡) 横穴墓-高岡市内の例を中心として-	高梨 清志 鹿島 昌也 山口 辰一
66 H11.3.31	ヒスイ勾玉の誕生 発掘調査速報(2) (庄川町松原遺跡、 大山町花切遺跡)	河村 好光 源田 孝 野中 由希子
H11 67 H11.7.1	境A遺跡出土品、重要文化財に指定される! 世界と日本の文化財保護 朝日町境関跡、婦中町勅使塚古墳	所 員 田中 琢 斎藤 隆、中川 道子
68 H11.9.30	平成10年度の発掘調査から (高岡市下老子 笹川遺跡、立山町利田横枕遺跡) 柳田布尾山古墳が語るもの-東アジアの視点から-	町田 賢一 三鍋 秀典 宇野 隆夫
69 H12.2.1	氷見市柳田布尾山古墳、小矢部市桜町遺跡 史跡の保存と活用	大野 究、中井 真夕 古川 知明
70 H12.3.1	三内丸山遺跡が語る縄文文化	岡田 康博

平成12年度(第71号)からカラー印刷となり現在の形に。巻末におすすめの県内遺跡を紹介する「行ってこれよ」の連載がスタート!



第71号 表紙は境A遺跡の土器(重文) 巻末「行ってこれよ」(第1回は不動堂遺跡)

No.	タイトル	執筆・発表者
H12 71 H12.6.30	中世の埋納銭 土層から見える風景 歩いて調べる中世の城跡	宮田 進一 高梨 清志 千田 嘉博
72 H12.9.29	中世の城館 京都で作られた中世の鏡 桜町遺跡の高床建物の復元	宮田 進一 小林 高範 上野 幸夫
73 H12.12.1	多彩な食の器 500年前の記憶 ※舟橋村仏生寺城跡 弥生の玉作りのムラ	久々 忠義 高梨 清志 島田 美佐子
74 H13.3.1	カミ、オニ、マツリ 塩を運んだ土器 縄文土器の技と美	越前 慶祐 境 洋子 土肥 孝

No.	タイトル	執筆・発表者
H13 75 H13.6.30	富山の縄文を掘る1 縄文人の住宅事情 荒野を拓く ※福光町在房遺跡 環境史・開発史・災害史	島田 修一 越前 慶祐 高橋 学
76 H13.10.1	富山の縄文を掘る2 縄文人の台所事情 いのりのカタチ ※小矢部市桜町遺跡 古代の技術革新	池野 正男 大野 淳也 関 清
77 H13.12.20	富山の縄文を掘る3 土器たちの横顔 縄紋のたくみ 弥生のたくみ	森田 誠 佐原 真
78 H14.3.15	富山の縄文を掘る4 縄文の見えざる文化 中世の日本海交易をさぐる	神保 孝造 前川 要
H14 79 H14.7.1	富山の古代を掘る1 古代の官僚制度 墨書土器が語るもの	池野 正男 平川 南
80 H14.10.1	富山の古代を掘る2 古代の庶民たち 小さなお城、大きなお城	関 清 宮田 進一
81 H14.12.20	富山の古代を掘る3 古代のリサイクル 生と死の祈り	池野 正男 水野 正好
82 H15.3.20	富山の古代を掘る4 古代の行政区画 フク来たたる遺物たち	関 清 若林 光
H15 83 H15.7.1	富山の弥生を掘る1 弥生のイエとムラ 気が付けば四半世紀 考古学へのいざない-縄文時代の見方が変わる-	岡本 淳一郎 岸本 雅敏 山本 正敏
84 H15.10.1	富山の弥生を掘る2 弥生土器の移り変わり 任海宮田遺跡の調査から	上野 章 武田 健次郎
85 H15.12.22	富山の弥生を掘る3 弥生人の道具箱 武士と茶の湯	山本 正敏 田辺 昭三
86 H16.3.22	富山の弥生を掘る4 弥生人のお墓 韓国で「倭城」に登る(上) 経塚発見伝	池田 恵子 高岡 徹 橋本 正春
H16 87 H16.7.1	富山の旧石器を掘る1 最初の狩人 弥生時代の新年代 韓国で「倭城」に登る(下)	山本 正敏 春成 秀爾 高岡 徹
88 H16.10.1	富山の旧石器を掘る2 石を極める 忘れられた霊場 黒川宗教遺跡群を探る	山本 正敏 高慶 孝
89 H16.12.20	富山の古墳を掘る1 活気づく古墳研究 掘り出された古代のムラ 友杉遺跡	池田 恵子 中川 道子
90 H17.3.18	富山の古墳を掘る2 横穴のなかには「黄泉の国」 石を活かす 木を活かす	酒井 重洋 下條 信行
H17 91 H17.7.1	とやま発掘物語1 不動堂遺跡 これからの歴史博物館を考える	山本 正敏 仁科 章
92 H17.10.1	とやま発掘物語2 北高木遺跡 ドイツの遺跡保護と考古学研究	安念 幹倫 小野 昭
93 H17.12.20	とやま発掘物語3 ニツ塚遺跡 戦後の発掘六十年	狩野 睦 大塚 初重
94 H18.3.20	とやま発掘物語4 小杉流団No.16遺跡 富山の発掘八十年	山本 正敏 藤田 富士夫
H18 95 H18.7.1	とやま発掘物語5 下老子川遺跡の「大地式土器」 埋蔵文化財行政 過去・現在・未来	町田 賢一 岡田 康博
96 H18.10.1	とやま発掘物語6 越中国府関連遺跡 布尻遺跡の調査	山口 辰一 島田 美佐子
97 H18.12.20	とやま発掘物語7 梅原胡摩堂遺跡 境A遺跡出土品の魅力	久々 忠義 小林 達雄
98 H19.3.20	とやま発掘物語8 射水丘陵遺跡群の調査 越中の中世城館	池野 正男 栗山 雅夫
H19 99 H19.7.1	30周年を迎えて 所報『埋文とやま』創刊の経緯 改革の節目に出会って 日本の湿地遺跡	関 清 古岡 英明 千秋 謙治 松井 章
100 H19.10.1	とやま発掘物語9 堀切遺跡の調査 富山城の石垣調査	八尾 隆夫 古川 知明

No.	タイトル	執筆・発表者
101	とやま発掘物10 囲山遺跡	久々 忠義
H19.12.17	水辺の考古学-いまひとつの正倉院-	水野 正好
102	とやま発掘物11 石名田木舟遺跡	宮田 進一
H20.3.25	発掘調査報告会 古墳出現期の墓と集落	岡本 淳一郎ほか
H20	103 越中地域考古資料(早川荘作蒐集品)	所 員
H20.7.5	認知考古学と実証主義	松木 武彦
104	とやま発掘物12 射水丘陵遺跡群の調査2	池野 正男
H20.10.1	鉄くずの考古学	関 清
105	とやま発掘物13 板屋谷内B・C古墳群	金三津 道子
H20.12.25	古代の飛騨と文化	八賀 晋
106	とやま発掘物語14 長山遺跡	神保 孝造
H21.3.20	古代の有力農民の屋敷地? ※下佐野遺跡	越前 慶祐
H21	107 とやま発掘物語15 朝日貝塚	山本 正敏
H21.7.1	デジタル時代の文化写真『作成』と『保存』『活用』について	中村 一郎
108	とやま発掘物語16 吉峰遺跡	橋本 正春
H21.10.1	小竹貝塚の調査	堀内 大介
	新潟県の八日市新保式土器	酒井 重洋
109	とやま発掘物語17 井口遺跡のころ	酒井 重洋
H21.12.20	城が語る天下統一	千田 嘉博
110	とやま発掘物語18 印田近世墓	斎藤 隆
H22.3.20	古代における山林原野の利用形態	関 清
	ただいま、整理作業中 ※下佐野遺跡	高橋 真実
H22	111 とやま発掘物語19 総合運動公園内遺跡群	河西 健二
H22.7.1	和鏡とその信仰	青木 豊
112	とやま発掘物語20 北高木遺跡2	安念 幹倫
H22.10.1	火炎土器と富山	山本 正敏
113	とやま発掘物語21 布目沢北遺跡	池田 恵子
H22.12.20	縄文土器の静と動	泉 拓良
114	とやま発掘物語22 任海宮田遺跡	高橋 真実
H23.3.20	黒曜石の考古学	山本 正敏
H23	115 とやま発掘物語23 南太閤山I遺跡	久々 忠義
H23.7.1	新版『発掘調査のてびき』について	水ノ江 和同
116	とやま発掘物語24 小竹貝塚-A地区-	河西 健二
H23.10.1	高岡城と城下町	岡本 淳一郎
117	世界の貝塚・日本の貝塚	松井 章
H23.12.20	北陸の縄文人と小竹貝塚出土人骨	溝口 優司
118	とやま発掘物語25 大光寺遺跡	山本 正敏
H24.3.20	古代・中世の農業技術	久々 忠義
H24	119 遺跡の電磁気探査と考古地磁気の紹介	酒井 英男
H24.7.1	センター収蔵展示室 新規OPEN!	河西 健二
120	とやま発掘物語26 浦山寺蔵遺跡	酒井 重洋
H24.10.1	出来田南遺跡について	町田 尚美
121	とやま発掘物語27 布尻遺跡	久々 忠義
H24.12.20	考古学からみた奈良の都	廣岡 孝信
	二本榎遺跡-横穴式石室をもつ円墳-	細辻 嘉門
122	大伴家持が《越》で見たもの	新谷 秀夫
H25.3.20	「埋文とやま」の30年-継続は力なり-	高梨 清志
H25	123 とやま発掘物語28 松原遺跡の再整理から	酒井 重洋
H25.7.1	土器の使用痕分析	小林 正史
124	とやま発掘物語29 魚津市早月上野遺跡	山本 正敏
H25.10.1	富山市平岡遺跡の発掘調査について	金三津 道子
125	とやま発掘物語30 高瀬遺跡	安念 幹倫
H25.12.20	縄文・弥生時代の編物	松永 篤知
126	日本のポンペイ中筋遺跡・黒井峯遺跡	石井 克己
H26.3.20	明治期の治水と高田雪太郎	是松 慧美
H26	127 とやま発掘物語31 境A遺跡	山本 正敏
H26.7.1	東日本大震災の復旧・復興に伴う埋蔵文化調査に参加して	岡本 淳一郎
128	とやま発掘物語32 安田城跡	島田 修一
H26.10.1	出土品が語る小竹貝塚	町田 賢一

No.	タイトル	執筆・発表者
129	とやまの史跡50年	安念 幹倫
H26.12.20	日本の史跡100年の歩みと展望	坂井 秀弥
130	高岡城跡の実態	田上 和彦
H27.3.20	弥生時代のヒスイ勾玉	高橋 浩二
H27	131 小竹貝塚 縄文人の世界	高梨 清志
H27.7.1	小竹縄文人を復顔する	戸坂 明日香
132	「発掘された日本列島2015」を開催して	高橋 真実
H27.10.1	先史時代の人とモノの動き	麻柄 一志
133	「北陸新幹線を掘る」展を開催して	高橋 真実
H27.12.20	古墳とは何か-古墳時代の他界観-	和田 晴吾
134	「縄文時代のとやま」展を振り返って	神保 孝造
H28.3.20	富山の縄文ムラ	西井 龍儀
H28	135 企画展「古代へのとびら2016」	坪坂 孝欣
H28.6.30	立山山上遺跡が語ること	久々 忠義
136	わくわく古代チャレンジ2016	橋 泰弘
H28.9.30	小糸尾萩野遺跡のすがた	田中 道子
137	特別展「霊峰立山-立山信仰を探る-」	高橋 真実
H28.12.28	山岳信仰のはじまりと役行者	黒崎 直
138	ほ場整備事業の試掘調査	神保 孝造
H29.3.30	立山にみる「救済のころ」	米原 寛
H29	139 創立40周年を迎えて	安念 幹倫
H29.6.30	新指定の県有形文化財(考古資料)について	高橋 真実
140	ほ場整備事業の発掘調査	高柳 由紀子
H29.9.30	わくわく古代チャレンジ2017	橋 泰弘
141	開所40年記念特別展 遺跡保護のあゆみ	高橋 真実
H29.12.28	杉谷4号墳・6号墳の調査	高橋 浩二
142	ほ場整備の試掘調査	町田 尚美
H30.3.30	とやまの歴史を語る	山本 正敏
H30	143 企画展「古代へのとびら2018」	米田 大介
H30.6.29	とやまの考古学を築いた先駆者たち	藤田 富士夫
144	立野ヶ原遺跡群に思うこと	境 洋子
H30.9.30	わくわく古代チャレンジ2018	橋 泰弘
145	特別展「旧石器時代とはどのような時代だったのか!」	町田 尚美
H30.12.31	大境洞窟 調査100年	大野 究
146	富山市水橋地区の試掘調査	田中 道子
H31.3.29	野尻湖の水河時代	近藤 洋一

平成の終わりとともに80回連載した「行ってこられよ」も終了、令和元年度から写真で当時を振り返る新連載「古写真発掘!」がスタート!

第147号巻末「古写真発掘!」(第1回は高瀬遺跡)



No.	タイトル	執筆・発表者
R1	147 企画展「古代へのとびら2019」	米田 大介
R1.6.29	旧石器時代のヒトとくらし	麻柄 一志
148	わくわく古代チャレンジ2019	米田 大介
R1.9.29	小竹貝塚の縄文人と埋葬犬の関わり	覚張 隆史
149	特別展「HYOUSHIKI 標式土器」	松井 広信
R1.12.27	富山県の縄文土器編年	島田 修一
150	『埋文とやま』主要記事総覧	小嶋 剛
R2.3.31	富山市水橋地区の試掘調査	朝田 亜紀子

これからも引き続き、『埋文とやま』にご期待ください!

埋文あらかると

富山市水橋地区の試掘調査

富山県では現在各地で農地整備事業(ほ場整備)が進められています。富山市水橋地区では、県営事業と並行して、広範囲の農地を大区画化して生産性の向上や先進的な農業経営を進める国営の事業化を目指しています。当センターでは、ほ場整備の工事に先立ち、水田の下に存在する遺跡の状況を確認する試掘調査を行い、遺跡が工事で破壊されないよう調整しています。今年度は、水橋恋塚遺跡、小出城跡、水橋小出遺跡、水橋大正遺跡の4遺跡において合計316本の試掘溝を設定し、試掘調査を行いました。このうち大きな成果のあった2遺跡を紹介します。



遺跡位置図

国土地理院電子地形図(タイル)に加筆

1 水橋恋塚遺跡 2 小出城跡 3 水橋小出遺跡
4 水橋大正遺跡

水田の下に眠る戦国城跡

小出城跡

富山市の北東部、常願寺川下流の扇状地に位置する戦国時代の城館跡です。織田信長に付く佐々成政と越後上杉勢との攻防の場となったことで知られます。『信長公記』等の文献資料に出てくる「小出城の戦い」は、天正9(1581)年、信長の馬揃えのため織田勢が京都に集まった際に上杉景勝が小出城を包囲しますが、急を知った佐々成政が織田勢の武将と共に取って返し、景勝を撤退させた出来事です。翌10年の本能寺の変後、景勝は再度小出城を奪います。天正11年に佐々成政が魚津城



小出城跡 試掘溝掘削状況

左奥が小出神社

を猛攻した際には、上杉勢は魚津城、小出城を明け渡し越後へ退去しました。過去の発掘調査では、こうした出来事と符合するかのよう16世紀後半頃の土器や漆器のほか、長刀の柄、腰刀、土製弾丸、火縄銃の鉛玉、軍馬とみられる大型の馬の骨など、戦乱を想起させる遺物が出土しています。遺物が埋まっていた堀や溝は人為的に埋め立てたり掘削したりした痕跡が認められ、戦の最前線基地として度々改修された様子が想像されます。

今回の調査で、城の中心部と考えられる小出神社周辺から、堀と思われる直線的で深い遺構を複数確認しました。城館本体は見つかりませんでしたが、神社敷地の辺りに存在した可能性がますます高まりました。一方で遺跡縁辺部では自然河川や湿地の広がりが見られました。小出城跡は南北西の三方を中小河川で囲まれた微高地に立地しており、水運や交通の要衝であるとともに、敵の襲来に備えた天然の要塞であったことが明らかとなりました。



小出城跡 堀検出状況

試掘溝内左側の土色の暗い部分が堀

弥生時代の住居出現

水橋小出遺跡

小出城跡の東に位置する弥生時代から近世に至る集落跡です。南北約800m、東西500mの広大な範囲が遺跡とされていますが、集落の中心がどこにあるのかはわかっていませんでした。今回の調査で、アシやヨシが生い茂った沼や湿地が広がる景観が復元でき、所々にある微高地上で人々が暮らしていた様子が判ってきました。微高地のひとつでは弥生時代中期の竪穴住居数棟と住居を取り巻く周溝が見つかり、埋土から弥生土器が潰れて壊れた状態で多数出土しました。土器の破片に混じって、翡翠や碧玉の剥片、砥石も見つかりました。碧玉は鮮やかな緑色の石で、管玉の材料となります。当時、集落内で勾玉や管玉などの玉作りをしていたのかもしれない。



水橋小出遺跡 碧玉出土状況



水橋小出遺跡 弥生土器出土状況

試掘調査では遺跡の全容を解明することは困難ですが、地道な調査の積み重ねが、土地に刻まれた歴史を紐解く一助となっていきます。(朝田亜紀子)

展示室

企画展「古代へのとびら2020」

令和2年4月14日(火)～9月17日(木)

富山県内で発掘された出土品をとおして、ふるさとの先人の暮らしを紹介します。展示を見て楽しく歴史を学びましょう。社会科の学習にもご活用ください。

接合資料
【直坂 I 遺跡】



特別展「BONE〈骨〉」

—貝塚で知る生命の証—

令和2年10月2日(金)～令和3年3月7日(日)

90体を超える人骨や約20頭の縄文犬の骨のほか、動物骨、イルカ・クジラ、魚骨、貝殻などが多数出土した小竹貝塚を中心に、骨から見えてくる縄文人の生活をクローズアップするとともに、最新の分析や研究による成果、今後の展望について展示します。



28号人骨【小竹貝塚】

ミニ企画「春の虫干会」

—重要文化財の風通し—

令和3年3月13日(土)～
令和3年4月4日(日)

当センターが所蔵する国重要文化財「境A遺跡出土品」の保存状態の定期点検を兼ねて、風通しの様子を公開するものです。ヒスイの玉や土器、石斧等を毎年少しずつ展示します。どれが出るかはお楽しみです。



玉類【境A遺跡】

収蔵 展示室

常設展「小竹貝塚展」

令和2年4月14日(火)～令和3年4月4日(日)

日本海側最大級の貝塚であり、91体の埋葬人骨が出土した小竹貝塚を見られます。あわせて、小竹貝塚に関する最新研究の成果を展示し、より興味をもっていただきます。

骨角器【小竹貝塚】



■ 県民考古学講座

考古学に関する最新の研究成果や近年の注目された発掘調査成果など、著名な講師や県内及び当センターの専門職員が、わかりやすく解説する講座です。

■ 富山の歴史出張プロジェクト

市町村教育委員会と連携し、地域住民に広く地域の埋蔵文化財や歴史に触れる出張展示会や考古体験教室を開催します。地域の遺跡からの出土品に触れながら話を聞いたり、まが玉づくりや火起こしなどの体験をしたりすることができます。

■ ふるさと考古学教室

親子で楽しく学ぶ考古学教室です。勾玉づくりやガラス玉づくりなどの古代体験を通して、先人の知恵や技を習得します。

- ・開催日 7月25日(土)、28日(火)～30日(木)、
8月1日(土)、8月3日(月)～6日(木)、
8日(土)、11日(火)
- ・対象 小学校4・5・6年生とその保護者

■ こども考古学クラブ

ちょっと専門的に、とやまの古代について学ぶ講座です。

- ・開催日 8月18日(火)、19日(水)、20日(木)
- ・対象 小学校6年生

古写真発掘!—《4》

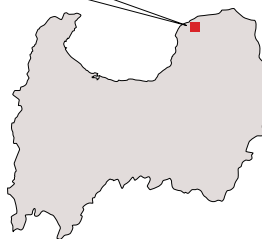


じょうべのま遺跡(国指定史跡) 昭和46年(1971年) 調査 下新川郡入善町田中

令和元年となった今年度、南砺市の国指定史跡「高瀬遺跡」でこのコーナーは始まりましたが、今年度の最後は入善町の国指定史跡「じょうべのま遺跡」です。実は、この2つの遺跡には“ご縁”があります。どちらも調査のきっかけがほ場整備で、国の史跡として保存される道を歩みました。遺跡の性格もどちらも平安時代の「荘家」とされています。史跡となった部分の発掘調査は同年に行われており、報告書に記載された調査日誌からは、調査担当者が県の東西を飛び回っていたことを容易に想像できます。じょうべのま遺跡は、この後、昭和48年(1973年)まで調査が継続され、昭和54年(1979年)に国指定史跡となりました。

上の写真は南から撮影したもので、奥に富山湾が見えます。海から100mほどしか離れておらず、物資を運搬するのに適した場所だったことがわかります。下の写真は、発掘作業の様子です。ご覧のとおり遺構までの深さが数10cmしかありません。耕している田の直ぐ下に遺跡は眠っていたのです。

じょうべのま遺跡は、その後整備され史跡公園として公開されています。



編集後記

『埋文とやま』150号記念特集に携わることができたことに喜びを感じるとともに、これまでの当センターの歴史や取組、県内の埋蔵文化財の意義等の重みを改めて実感しました。これからも皆様にとって有意義な『埋文とやま』になるよう、取り組んでいく所存です。
(担当 小嶋)

富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.150

令和2年3月31日発行 編集/富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814
URL <http://www.pref.toyama.jp/branches/3041/maibun/>

